



校舎の裏山で炭焼き体験

西住小学校の5年生 12人が竹炭づくりに挑戦しました。炭窯にはドラム缶を加工したものを使用し、竹を縦に割って炭窯いっぱいになべ、焚口から火を付けました。煙で燃え具合を判断し、火を止めてから1日置いて、いよいよ炭出しです。「灰になってないかなあ」と心配する声もありましたが、窯の蓋を開けると見事な竹炭が姿を現し、子どもたちから大きな歓声が上がりました。

(仮)柴田町住民自治によるまちづくり基本条例
新しい健診制度 特定健康診査・特定保健指導

いよいよ柴田町住民自治基本条例をつくる会（以下「つくる会」）から
条例素案が提出されます

《仮》柴田町住民自治による まちづくり基本条例

～未来へ向かうしばたの条例～

みんなの知恵や意欲、



行動が活かされ、



柴田町をもっともっと元気にしたい…



みんなが手をつなぐ、



助け合いながらまちづくりを進めたい…



その力になれる条例



平成 18 年 10 月 28 日につくる会が設置され、1 年 9 カ月におよび条例素案の検討を重ねてきました。その成果である条例素案がいよいよ 8 月 1 日に町長へ提出されます。

この条例は、まちづくりの担い手である住民と地域コミュニティ、住民活動団体、行政、議会、事業者や学校など諸団体がどのようにまちづくりを進めればよいのか、その大切な考え方や手順・方法を示しています。そして、まちづくりの“主役”である住民がまちづくりに参加していこうと思える、また、担い手相互が手を携えながらまちづくりを進めていくことができる“しくみ”を定めた、まちづくりを進める上で最も基本となる条例です。

住民自治基本条例素案検討の取り組み

時 期	項 目	内 容
平成 16・17	住民自治基本条例検討委員会	住民自治基本条例制定の必要性や、つくる場合の体制やその進め方に関する検討の実施
平成 18年 6月	行政区説明会	487人参加
8月	つくる会スタートフォーラム開催	明治大学牛山教授による基調講演 ほか 約 150人参加
10月	つくる会発足 第1回全体会	公募 59人、町職員 6人の計 65人でスタート つくる会委員全体で協議する「全体会」は合計 51回実施
平成 19年 2月	部会編成	「地域コミュニティ」「さくらぶ」「アンサンブル」の3部会編成。部会検討を合計 50回実施
3月	運営委員会結成	会長・部会長、事務局によりつくる会の進め方、検討内容の調整を協議する
3月	情報発信グループ結成	つくる会メンバーにより情報発信紙「アワーズ」を合計 13回発行。
7月	部会の成果報告会	各部会の活動成果を報告し、共通理解を図る
10月	福島県三春町へ研修	「町民主体のまちづくり」について
11月	説明会チーム結成	紙芝居、人形劇を作成。住民説明会で上演
11月	住民説明会開催	以後、住民説明会は6回実施、213人参加
平成 20年 3月	条例素案たたき台検討開始	以後、8月の条例素案提出まで検討

フォーラムの主な感想

「柴田町をつくるのは、私たち一人ひとりの住民なのだ、とあらためて感じた」

「是非この条例を私たち住民の宝物にしたい」

「この条例が早く制定され、定着することを望む」

「若い世代にもっと声がけして参加していきたい」

「内容は理解できるが、住民にこの条例を広めていくには大変な努力が必要だと思う」

「もっと分かりやすい、なじみやすい条例を目指して欲しい。難しい表現や横文字を減らして、優しさが入るともっと良い条例になる」

などたくさんのご意見をいただきました。



条例説明 町民フォーラムの開催!!

「町民フォーラム」(平成20年7月12日(土)開催)

フォーラムには110人を超える方が集まり、基調講演、つくる会による人形劇、条例説明に熱心に耳を傾け、条例素案に対する質疑応答が交わされました。

山田晴義アドバイザー(宮城大学副学長)からの基調講演では、つくる会の取り組みの成果として、住民の主体性の醸成、住民の情報発信による「共有の輪」が広がっていること、住民と行政の関係やお互いに対する姿勢に良い変化が生まれている、といった話がありました。



条例素案は8月1日に町長へ提出され、所定の手続きを経た後、町議会へ上程される予定です。

なぜ、いま条例づくりなのか？

例えば・・・「柴田町住民自治基本条例の目指すものは、住民の暮らしの中に安らぎや喜びをもたらし、ふるさと柴田町の自然や文化を守り育てる、一人ひとりの住民やコミュニティ活動がまちの宝であることを認識し、この活動を支援し、一層発展させることにあります。まちづくりは待っていても、見ているだけでも進展はしません。本条例は、まちづくり活動の担い手となる一人ひとりの意欲が保てるように、願いを込め必要なしくみを明確にし、柴田町のまちづくりを将来にわたって持続、発展させるために制定を目指します。」（第22回つくる会全体会 前文作成資料より一部抜粋）

住民自治基本条例は、地方分権や住民、議会、行政の役割・責務の明確化など、さまざまな面からその必要性がいられていますが、つくる会では柴田町におけるこの条例の必要性を、身近なところから見つめ直し全員で考えてきました。



この条例素案での基本的な考え方や具体的なしくみや制度はどのようなものを考えているのでしょうか？条例素案の中から、まちづくりについての大切な考え方についていくつか紹介します。

まちづくりの基本

■まちづくりの主役と担い手

まちづくりは、「住民」が主役であり住民の参加と協働が基本となります。

住民、行政区や小学校区のような一定の範囲の地域コミュニティ、住民活動団体、行政、議会、事業者がまちづくりの担い手となります。

■住民参加とまちづくり

まちづくりは多くの住民が参加することから始まり、そこで得られる楽しさや達成感が生まれることが、まちづくりの進展につながります。

住民は地域コミュニティや行政と連携してまちづくりを担います。

■協働のあり方

まちづくりは、住民、地域コミュニティ、住民活動団体、行政、議会、学校や企業などの事業者が手をつなぎあって協働することにより進展します。

■まちづくりを進めるための情報公開・共有

情報の公開・共有は、住民参加と協働を進める原動力となるため、行政、議会、地域コミュニティ、住民活動団体などは、情報の公開・共有に努めます。



これらの大切な考え方によって、誰が、どのようにしてまちづくりを進めていくのかについては、この後に続く「まちづくりの担い手の役割」、「目的実現のためのまちづくりを進めるしくみ」で示されています。

つくる会で考えられた 条例素案のかたち

前文

条例の目指すもの

柴田町のまちづくりの目標や、それを実現するための条例の目的を明らかにします。

まちづくりの目標

- ①住民の誰もが安全に、安心して暮らせるまちづくり
- ②住民であることの誇りと町の良さを子供たちに引き継げるまちづくり
- ③住民の思いや活動が活かされるまちづくり
- ④住民みんなが助け合い、様々な団体や個人が連携するまちづくり

条例の目的

■調和のとれた住みよいまちづくりの実現

■住民が個人として等しく尊重され、生き生きとしたコミュニティの実現

■住民参画と協働を効果的に進める行政運営の実現

■協働によるまちづくりの実現

条例の位置づけと言葉の定義

柴田町のほかの条例、規則との関係、この条例で使われる主な言葉の意味を明確にします。

- 位置づけ ■言葉の定義

まちづくりの基本

まちづくりを進める上で、基本となる考え方、踏まえるべきことを示します。

- まちづくりの主体と担い手 ■協働のあり方
■住民参加とまちづくり ■まちづくりを進めるための情報公開・共有

まちづくりの担い手の役割

まちづくりの担い手それぞれの役割と考え方を示します。

- 住民の役割 ■行政、職員の役割
■地域コミュニティの役割 ■議会、議員の役割
■住民活動団体の役割 ■企業や学校などの諸団体の役割

目的実現のためのまちづくりを進めるしくみ

4つある「条例の目的」について、その一つひとつの実現に向け、その方法やしくみを具体的に示します。

■調和のとれた住みよいまちづくりの実現のために

■住民が個人として等しく尊重され、生き生きとしたコミュニティの実現のために

■住民参加と協働を効果的に進める行政運営の実現のために

■協働のまちづくりの実現のために

住民投票制度

まちづくりの重要な事項について、住民が直接意思表示できるしくみの概要を示します。

- 住民投票制度

本条例運用の仕方

条例が生かされたまちづくりが行われているか確認するしくみの概要を示します。

- 本条例運用の仕方

新しい健診制度 特定健康診査 特定保健指導を受けて 健康づくりをしましょう



40歳から74歳の方を対象に糖尿病などの生活習慣病、特にメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防に着目した新しい特定健康診査・特定保健指導が始まりました。
また、75歳以上の方は「後期高齢者医療制度」によって健康診査を受診することになります。
いつまでも健康で過ごすためには、生活習慣病の予防が大切です。特定健康診査を受けて自分の生活習慣を見直しましょう。

メタボリックシンドローム 予防・解消に着目した 健診が始まります

これまでの健診は、高血圧、高脂血症、糖尿病などの病気の早期発見、早期治療を重視してきました。新しい健診では、糖尿病などの生活習慣病の有病者・予備群を減少させる目的で、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した「特定健診」と「特定保健指導」が導入され、生活習慣病の発症を未然に防ぐ内容に変わります。



メタボリックシンドロームは こうして進行します！

↓ 食べ過ぎ・運動不足など放っておくと

メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満 + ①脂質異常 ②血圧高値 ③高血糖

①～③のうちいずれか2つ以上が該当

↓ 放っておくと

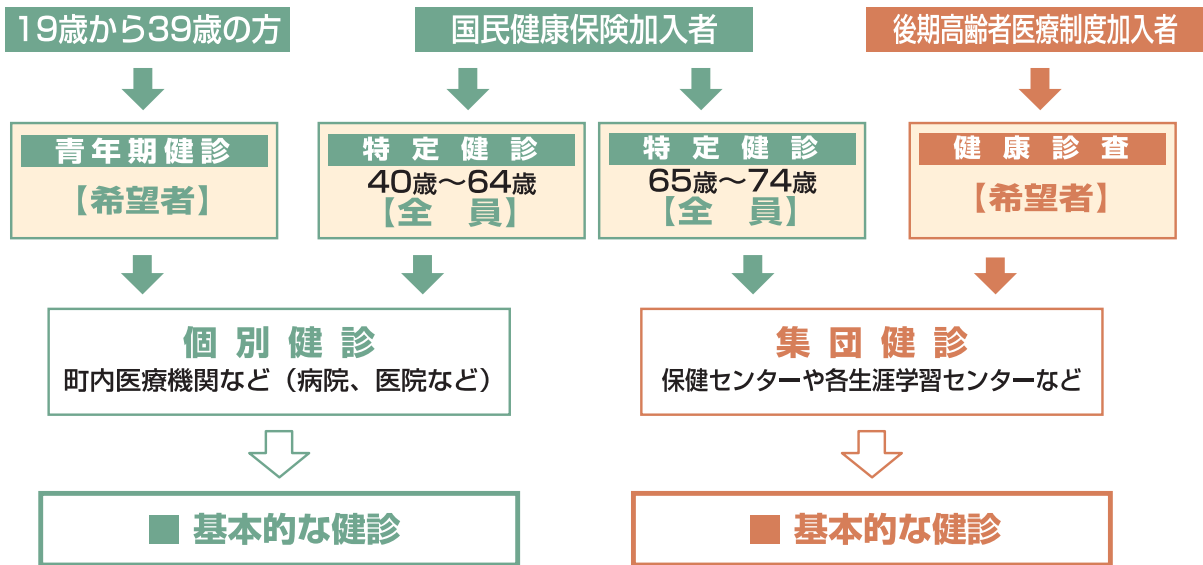
動脈硬化

体の各部へ血液を運ぶ動脈が硬くなったり、もろくなったり、つまったりする

↓ 放っておくと

心臓病 まわしんいびょう 狭心症・心筋梗塞 **脳卒中** しんまんこうそく など…

特定健康診査などの流れ



健診項目

メタボリックシンドローム該当者・予備群の発見に的を絞った項目となります。

特定健診の健診項目 ●…特定保健指導のレベル分けに用いられる項目

問診票	服薬、既往歴、貧血、喫煙など	●
身体計測	身長	●
	体重	●
	BMI	●
	腹囲	●
理学的所見	身体診察	●
	収縮期/拡張期	●
血圧	中性脂肪	●
脂質	HDLコレステロール	●
	LDLコレステロール	●
	AST (GOT)	●
肝機能	ALT (GPT)	●
	γ-GT (γ-GTP)	●
代謝系	HbA1c	●
	血糖	●
血液一般	ヘマトクリット値	■
	色素量 (ヘモグロビン等)	■
	赤血球数	■
尿・腎機能	尿蛋白	●
心機能	心電図	■
眼底検査		■

●…必須項目 ■…医師の判断に基づき選択的に実施する項目

健診結果は3段階の特定保健指導に分類

特定保健指導の対象者のレベル分けの基準

	追加リスク		対象	
	① 血糖	④ 喫煙歴	40~64歳	65~74歳
腹囲	② 脂質	最近1カ月に喫煙	積極的支援	65~74歳
	③ 血圧			
	2つ以上該当		積極的支援	65~74歳
1つ該当	あり	動機づけ支援		
男性 85cm以上の人	なし	情報提供		
女性 90cm以上の人		情報提供		
上記以外で BMI 25以上	3つ該当	あり	積極的支援	
	2つ該当	なし	動機づけ支援	
	1つ該当		動機づけ支援	
BMI = 体重(kg) ÷ (身長(m)) ²	該当しない	情報提供		
該当しない		情報提供		
腹囲もBMIも正常		情報提供		

※ 斜線欄は、上の欄の追加リスクがレベル分けに関係ないことを示す
 ※ 糖尿病、高血圧症または脂質異常症（高脂血症）の治療にかかる薬剤を服用している場合を除く

特定保健指導の実施

特定健康診査の結果に基づき、情報提供、動機づけ支援、積極的支援の3段階に分けて、特定保健指導が実施されます。

健診受診者全員に ① 情報提供 問診や健診結果をもとにして、生活習慣の見直しや生活習慣改善に必要な情報が提供されます。提供される情報は、健診結果の見方、具体的な健康づくりの方法などです。

メタボ予備群という人に ② 動機づけ支援 **初回** 個別またはグループ面接を行います。健診結果から今の生活習慣を振り返り、生活習慣改善の必要性を理解した上で、医師・保健師・管理栄養士のサポートを受けながら、すぐに実行できる目標を立てます。 **6カ月後** 健康状態や生活習慣の確認が行われます。

メタボ該当という人に ③ 積極的支援 **初回** 個別またはグループ面接で今の生活習慣を振り返り、生活習慣改善のための行動目標を立てます。 **3カ月以上の継続的支援** 一定期間、医師・保健師・管理栄養士のサポートを受けながら健康づくりを継続していきます。個別面接やグループ面接に加え、実技・実習・電話やFAXなどによる保健指導を3カ月以上継続して行います。 **6カ月後** 健康状態や生活習慣の確認が行われます。

グラウンド・ゴルフ 5/18

柴田球場、多目的グラウンド (参加者157人)



個人戦 (1ブロック)
 優勝 平間志げ子
 準優勝 阿部 秀志
 第3位 加藤 孝二
 第4位 後藤トキ子
 第5位 鈴木 宗悦
 第6位 鈴木 雄幸
 第7位 橋元 正男
 第8位 春浪 輝男

個人戦 (2ブロック)
 優勝 加藤 正晴
 準優勝 高橋 博
 第3位 平間 洋子
 第4位 豊島 康造
 第5位 牧野 哲郎
 第6位 伊藤紀久夫
 第7位 玉淵シゲ子
 第8位 近藤さな代



6/12 ゲートボール

多目的グラウンド (参加者100人)

優勝 柴田さくら会B
 準優勝 明青会
 第3位 潤和会
 五幸会



ビニールボール 6/22

船岡体育館 (126人)

優勝 新栄
 準優勝 西住
 第3位 中曽根
 ホープズ



6/22 6/29

ソフトボール (461人)

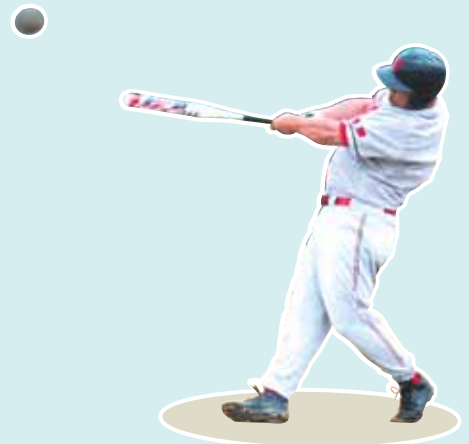
多目的グラウンド、柴田球場、阿武隈川グラウンド、並松グラウンド

Aブロック
 優勝 ブルドック
 準優勝 原町
 第3位 西住
 四日市場沖

Bブロック
 優勝 フィルダース
 準優勝 大橋インザックス
 第3位 新町
 土手内



宮城ヘルシー大会柴田町予選会および町民大会



6/29 バドミントン 船岡体育館 (32人)

7/6 ラージボール卓球 船岡体育館 (65人)

男子シングルス1部	男子シングルス2部
優勝 村上 竹彦	優勝 加藤 春治
準優勝 明間 洋	準優勝 飯田 貞司
第3位 半沢 吉充	第3位 網野 真
千葉 盛	鈴木 宗悦

女子シングルス1部	女子シングルス2部
優勝 明間 友紀	優勝 佐藤 佳子
準優勝 札木 道代	準優勝 中島 幸子
第3位 大槻 洋子	第3位 福地 フジ
寿松木 君子	佐々木 征子

混合ダブルス

優勝 明間 洋・中島 幸子
準優勝 半沢 吉充・吉田 順子
第3位 菅原 丸・及川 洋子
佐々木 光男・寿松木 君子

ダブルス1部

優勝 青沼 正人・升沢 正孝
準優勝 大場 正崇・斉藤 つい子
第3位 大久保 義信・浅野 敦子

ダブルス3部

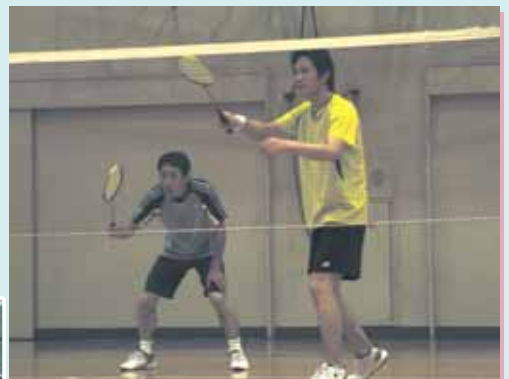
優勝 中木 美紀・村山 琢也
準優勝 大村 正利・大場 広子
第3位 高橋 祥子・加納 清香

ダブルス2部

優勝 水戸 伸佳・中木 祐輔
準優勝 笹木 一雄・細谷 信行
第3位 木村 輝夫・笠 博子

ダブルス4部

優勝 勝村 岳・菅野 真一
準優勝 中山 沙知恵・笠原 かつり
第3位 鈴木 いく子・安藤 郁子





51

柴田町長 瀧口 茂

住民自治基

本条例の素案
がおおむねま
とまりました。平成16年6月
に設立された
住民自治基本

条例検討委員会の助言を受け、平成18年10月に住民自治基本条例をつくる会が素案づくりを開始しました。その後、1年10カ月にわたり、柴田町がどのような姿であれば住みよい町といえるのか。どうしたら子どもや孫たちに心地よい町が残せるのか、行政と住民との協働によるまちづくりとはどういうことなのかなど、熱い議論が繰り広げられました。

当初は一人一人のまちづくりへの思いが強く、なかなか意見がかみ合わない場面もありましたが、2000回以上にわたる議論の末、小異を乗り越え、ここに素案がまとまりました。ここは大変意義深いと思います。地方分権時代を迎えた今、行政と住民が知恵を出し合い、個性的なまちをつくっていくことが求められています。しかし、一方ではまだまだバブル期の甘い思い出が忘れられず

住民自治基本条例の制定について

に、国の補助金をあてにした公共事業への期待や合併すれば地域が発展するといった幻想から抜け出せない方もいらっしゃる。はつきり申せば、借金まみれの国にこれ以上市町村の面倒を見るお金はありません。これからは、地域が持っている資源や遺産、文化や人材などを活用し、身近な行政と共に、住民

自らが生活環境の向上や地域の魅力を高めるための努力が大切です。自分たちの地域は自分たちの手でつくろうとする住民自治が成熟してきてこそ、地域の再生が可能になると思います。こうした、住民の知恵やパワーを行政運営に反映させ、住民との協働によるまちづくりをルール化したのが住民自治基本条例です。自立したまちづくりの標準装備として、今、この条例の制定が燎原の火の如く全国の自治体に広がっています。柴田町はまちづくりの主役は住民であることを改めて宣言し、自治活動の実践を通じて、コンパクトで質の高いまちづくりを目指すバックボーンとして、住民自治基本条例の制定を急いで参ります。

よもやま話 ふるさと・四方山話

町内お寺めぐり(7)

曹洞宗・荒神山長照院(成田)

お寺には長い長い歴史があります。それをよくご存知なのはご本尊さまです。

このお寺のそもそものは平安初期、東北行脚中の慈覚大師が疫病に苦しむ村人のために、草庵で地藏さまを刻みお祈りをしたのが始まりで、そのお地藏がご本尊の延命地藏菩薩と伝えております。寺は当初天台宗

で竜眼寺といいましたが、天

正年間焼失。その後、承応三

年(一六五四)東陽寺十四世

宝山存貞和尚が曹洞宗に改

め、荒神山長松寺としました。

この和尚が開山第一世で、開

基は成田康頼。天正の頃伊達

氏に滅ぼされた先祖の菩提

のため、竜眼寺の跡に寺を建

立したとのこと。開山の存貞和尚はその成田

家の重臣の子孫なのだそうす。

宝暦八年(一七五八)本堂焼失、復興を機

に寺号を長照院と改めました。

寺に伝わるふしぎな話。村人が野良に出て

いたある日、一天にわかにかきくもり、篠突

く大雨。あわてて家に戻れば、外の干し物も、

えつこ(わら製のかご)の赤子も濡れること

もなく家の中。残っていたのは大きな足跡。

それが点々と寺へ。見れば雫を垂らしたご本

尊さまがにこやかに坐しておられます。村人は寺草創以来大切にお守りし、火事の時は背負ってお救いしたご利益といっそう尊崇しました。

本堂に三十三観音が祀られております。先任の泰輔和尚がことのほか観音様を信仰。観音経を読み、お姿を千体描くことを発願。不治の病を代わって頂いたと信じてのことでした。

そのほか二・五メートルの親子地藏と、それとそっくりの小さなお地藏が三十五体建っています。毎年十一月三日が例祭とのこと。

昭和五十三年の宮城県沖地震で本堂は修復不可能の損傷を受け、新築することになりましたものの、見積りの半額しか費用を捻出できず、途方に迷っていたところ、予算内で引き受けるという業者が現れ、寺の大檀那の用材一切寄進との申し出もあつて、寺も檀家も愁眉を開き、一致協力、昭和五十五年見事に竣工しました。

現任職は二十一世大宮典昭師。梅花流御詠歌の特別師範として県内外で指導に当たっています。

柴田郡三十三観音(千手観音)第六番札所
いざかたものころくまなくてらすなり
あらがみやまのりののりともしび

柴田町郷土研究会 後藤 彰三
イラスト 保科 毅

育児は育自

わが家では、夜になると家電製品が動き出します。洗濯機は音がとても静かです。食器洗い乾燥機も食器類をきれいにしてくれて、炊飯器は朝においしいご飯を炊き上げます。電子レンジに掃除機など家電製品の技術進歩は私たちの暮らしを楽にしてくれています。

しかし、妻は「忙しい」「時間が無い」と家の中を行ったり来たり。コーヒールを飲みながら新聞を読む私の顔をうらやましそうに見ています。家事や育児を担ってきた女性の家事（育児）時間は変わっていないのでしょうか。

国の調べによると昭和45年の女性の家事平均時間は4時間37分でしたが、30年後の平成12年には3時間49分に減ってきました。一方、男性は昭和45年が27分、平成12年が32分とほとんど変わっていないことがわかりました。

休日、家族でデパートに買い物に行きました。妻の負担を減らそうと子どものおむつ交換は私が引き受けることにしたのです。

いつもは妻に任せっぱなしのおむつ交換。緊張しながら「ベビールーム」に入ったのです。すると離乳食を食



べさせたり、おむつを交換していたりする男性が何人かいるではありませんか。緊張もなくなり、おむつを交換していると隣の女性が声を掛けてきました。「お子さん、何歳ですか。お父さんに綺麗にしてもらって嬉しそうですね」私は少し照れながら「2歳になります。実は、こういう場所でおむつ交換したのは初めてなのです。でも、男性もいるのですね」と答えました。するとその女性は「紙おむつは簡単ですし、離乳食もレトルトが売っていますから男性でも簡単に育児ができますよ」と笑顔で話してくれました。

男性の子育てへの参加は男女共同参画社会を目指す第一歩です。食事、おむつの交換、お風呂、遊び、昼寝：：男性の出番はたくさんあります。さあ、できることから始めてみましょうか。



食育実践「干し筍」

食育実践について紹介します。先日、地産地消の一環として「柴田産筍」を使った「干し筍」作りを体験しました。

毎年、5月頃になると、どこの家庭でも毎日形を変えながら、食卓にのぼるほど筍は旬の野菜として手に入りやすいものです。お店で購入したらほかからいただき「どうしよう」という経験があるのではないのでしょうか。そんな時にお勧めなのが「干し筍」です。

柴田町食生活改善推進協議会が町民の皆さんを対象に幅広く食育に取り組んでいる一環として実施しましたので、作り方を紹介します。まず、皮をむいて茹でた筍を食べやすい大きさに切りザルなどに広げて天日干しにします。夕方は家中に取り入れ、朝になったら再度天日に干します。出し入れを繰り返しながら3日から4日間天日に干すと出来上がりです。袋に入れて保存できます。協議会ではこの「干し筍」を使った献立を昨年の食育事業に取り入れ、煮物として参加者に提供したところ大変喜ばれました。かみごたえが従来の筍とは違って軟らかく、幼児期から高齢の方まで食べることができ、よくかまないと飲み込めないという筍本来の食感を残しながらも美味しく食べられたと好評でした。

長年かけて培ってきた、それぞれの家庭の味が受け継がれていく「食事」作りは心と体を育むために必要不可欠なものです。

しかし、私たちの食生活は、ニーズの多様化によって大きく変化しています。その中で、食を大切にする心や食文化を次世代の子どもたちに継承していくためにも食育が活躍しています。町の食育推進計画のキャッチフレーズでもある「食を楽しみおいしくいただく」ためにも「食育」は健康づくりを高めるための足がかりとなることを願っています。そして「食事は楽しいもの」と生涯にわたって意識してもらえような「食育」に取り組むことが協議会の使命と考え、今年度も「食育」事業に力を注いでいきたいと考えています。

「干し筍」の出来上がる過程が、子どもたちにとつて楽しい思い出づくりになるように親子一緒に体験をし、これからの食生活に生かしていただければ幸いです。



まちかど NEWS



救急車が来るまでの
応急手当が重要です

応急手当の技術を習得

NEWS

6月25日に榎木生涯学習センターで、とうちゃんのか磨き「救命処置の技」が、また、7月2日から4日には、榎木中学校で救急救命講習会が開かれました。応急手当に関する正しい知識と技術の習得を目的とした今回の講習では、心肺蘇生法やAEDの使用方法などを繰り返し練習しました。慣れない作業に戸惑いましたが、消防職員の分かりやすく丁寧な指導のもと真剣に取り組みました。



AEDは音声に従えば簡単です

万が一のときに備えて

NEWS

6月1日、柴田町消防団（佐藤賢一団長）の消防演習が行われ、町内6つの分団から280人の団員が参加しました。当日は雨の影響で、会場が柴田町民体育館に変更され、例年実施されている小隊訓練、機械器具点検、操法訓練（ポンプ車操法・小型ポンプ操法）などは中止となりました。参加した団員の皆さんは、防火に対する意識を高め、消防の重要性を再認識しました。



水の感触が気持ちいい

夏休み本番まただ中

NEWS

子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきました。小学校のプールでは、子どもたちが気持ちよさそうに水にもぐったりビート板を使ったりして泳いでいます。川や海、虫捕りなど子どもたちは大忙し。夏休みは長いようであつという間です。もうすぐ夏休みも折り返し地点。一回りも二回りも成長して新学期を迎えられるように、遊びに学習に、そして思い出づくりに取り組もう！



消防精神を発揮し、
一層訓練に励みます

広 告

広 告

3 町合併を考える

NEWS

町民の皆さんが3町合併を考える機会として「3町合併を考えるシンポジウム」が、7月5日に槻木生涯学習センターで開催され、約200人が参加しました。南三陸町長の佐藤仁氏に「南三陸町の合併について」と題し講演をしていただき、続いて行われた「私はこう考える3町合併コーナー」では、会場内の皆さんから3町合併に対する活発な意見を出していただきました。

南三陸町の合併について講演をする佐藤仁町長



桜の木を診断する
第16代佐野藤右衛門氏

桜の美しさを後世に残す

NEWS

老木化の進む桜の保存育成について考えるつどいが、6月17日、日本さくら会副会長の第16代佐野藤右衛門氏を招いて開かれました。当日は、船岡城址公園や白石川堤を歩いて、桜の木に触れたり、木槌で叩いたりして健康状態を確認しました。また、町関係者やさくらの会、造園業のかたがたとの懇談会も行われ、現状と課題、今後の対応策などについて活発な意見交換が行われました。

収穫が楽しみです

NEWS

6月14日、槻木生涯学習センターで「ウィークエンド遊ゆう塾」が行われ、小学生の親子5組10人が参加しました。今回は、枝豆の苗植え作業を体験。子どもたちは、ポットに入った苗を受け取り、あらかじめ掘られた穴に苗を入れて優しく土をかぶせ、最後に元気に育つことを願いながら水をたっぷり与えました。9月上旬には収穫し、もちをついて、取れたての枝豆をいただきます。

みんな上手に植えることができましたよっす



まだ知らない柴田の魅力が
いっぱいです

四季折々の絶景を集めて

NEWS

町に残る美しい自然の風景を集めた写真展「柴田の自然55景」が、5月30日から6月1日までの3日間、開催されました。展示された写真は、佐藤明さん（西船迫）が5年間にわたり町内を探訪して撮り集めたもので、どの作品も自然が織り成す幻想的な風景で、見る人の心に安らぎと潤いを与えてくれます。皆さんも季節ならではの自然を感じ、自分だけの絶景スポットを探しに行きませんか。

広 告

すばらしい仲間たち

豪快なスマッシュを放つ

さくらバドミントン愛好会



次の大会に向け、練習に熱が入ります



まだまだ若い人には負けません

今回ご紹介するのは、今年で結成10年を迎えるさくらバドミントン愛好会です。

この愛好会は、町が開いたバドミントン教室をきっかけに、平成10年に発足しました。現在の会員数は39人。年齢も22歳から74歳と広い世代の方が在籍し、毎週火曜日、船岡体育館で午後7時から午後9時まで楽しく汗を流しています。活動内容は、軽いウォーミングアップの後に、くじ引きで決めたチームでダブルスを行い、技術向上に励んでいます。また、各種大会へ参加するなど精力的に活動の場を広げ、先日行われた町民大会でも優勝するなど、今後の活躍から目が離せません。

皆さんのやる気に引っぱられ、私も練習に参加させてもらいました。しかし、経験の差や普段からの運動不足で体が言うことを聞かず、得点を挙げることはできませんでしたが、また機会があれば挑戦したいと思います。

バドミントンは、北京オリンピック日本代表で、オグシオの愛称で知られる小椋・潮田ペアの人気で競技人口が急増中の旬のスポーツです。また、比較的狭い場所でも、年齢や性別を問わず、誰でも生涯スポーツとして気軽に楽しむことができますので、皆さんも始めてみませんか。

こうほう 文芸云

俳句

大地震に正座してをり雲の峰
水の藻に映るポピーをすくいけり
朝仕事終えて向きあう茗荷汁
リハビリのプールへの道青葉風
夏雲の大きく動く水たまり
石庭に影を揺らして沙羅の花
部活子へ三ツ矢サイダー準備中
最北の海霧悲し鎮魂碑

吾妻 文子
石垣テル子
及川美沙子
鈴木 純子
制野 千秋
中野制純子
山家美智子
若月ノリ子

川柳

気温差が激しく今日も衣替え
天引きでわずかな金がさらに減り
蝸牛世間どうでもマイペース
病弱をからかうように震度四
限りなく嘘つき社長また土下座
お裾分け隣の嫁は浜育ち
現世は皆で築こう極楽浄土
姥捨てへ行けと区切った七十五

四日市場 坂本 一風
四日市場 斉藤夢太郎
西船迫 大沼 一路
船岡 斉藤 八重
船岡 早坂 洋子
船岡 島貫とし子
船岡 清水 常春
船岡 長尾 純子

短歌

盆踊る女々女や乙女なり
一夜の熱き恋を舞いあれ
しゃぼん玉いまごろ屋根でひるねかな
つぶやく孫に夏の陽そそぐ
友くれし白百合の花今年また
ゆかしく清く木陰に香る

船岡 大槻 信吉
船岡 柄目けい子
船岡 沢田 順子
西船迫 小川 仲子

告 告

告 告



夢空間 2008

乗駒山の肌裂けた

一、乗駒山の肌裂けた
 緑に映える初夏の朝
 幾多の嘆き苦しみが
 地鳴りの声と逆り
 見る影も無いその姿
 乗駒山の肌変わる

二、遠い祖先の昔より
 四時の眺めとやすらぎの
 おらがお山は図らずも
 無残突発地の変に
 恨みも深しその姿
 乗駒山の肌の哭く

大久保義正さん (四日市場)



坂本 夢真 ちゃん(4カ月)
 (槻木駅西1丁目)

ひとこと

みんなに愛される優しい子
 になってね。

(父：雄一郎さん)

母：裕美さん)



お子さん(4歳まで)の写真をお待ちしています。写真の裏にお子さんの名前を必ず書いてください。投稿者の住所、氏名、電話番号、子どものお名前・生年月日を明記し、「ひとこと」を添えて応募してください。

こども美術館



「校舎の中のきれいな花」

船岡小学校 6年

大浦 静 さん



「ゲートを抜けてゴールイン」

東船岡小学校 5年

斉藤理樹 さん

ふれあいマイタウンは、町民のみなさんからの応募・紹介でつくるコーナーです。俳句・川柳・短歌に興味がある(こほう文芸)、とてもすてきな方なので紹介したい(人間もよう)、自己表現コーナー(夢空間 2008)、子どもの成長の写真やかわいい孫の写真を載せたいという方(町内にお住まいの4歳以下のお子さん)、ハガキ、手紙などで9月12日までご応募ください。 ■連絡先/まちづくり推進課 ☎55-2278

広 告

広 告

自治功労者・町政功労者

23人・5団体・9事業所を表彰

町政の発展に貢献された個人・団体などを表彰する「平成20年度自治功労者及び町政功労者表彰式」が、6月20日、槻木生涯学習センターで行われ、23人・5団体・9事業所に表彰状や感謝状が贈られました。

表彰を受けたのは、次のかたがたです。(敬称略・順不同)



自治功労者

■多年にわたり消防団員として 消防防災に尽力

太田 利治 (船岡中央3丁目)
倉繁 義隆 (船岡新栄2丁目)
渡邊 禮一

(本船迫字十八津入)

中森 廣 (船岡東2丁目)
山平 庄吉 (船岡字若葉町)
手塚 嘉信 (船岡字新田)
谷口 勲

(船岡土手内2丁目)

山家 正夫 (船岡字西住町)
近江 秋成 (船岡字西住町)
西根 秀雄 (船岡字山岸)
山本 繁男 (北船岡1丁目)

■多年にわたり消防行政、農業 行政に尽力

平間 明夫 (成田字内越)



町政功労者

■浸水被害拡大を防止するなど防 災活動に貢献

及川 信 (船岡西2丁目)

■柴田町さくら基金として多額の 金員を寄附

東北リコー株式会社
(中名生字神明堂)

■建設資材を寄附し町道整備の充 実に貢献

北日本電線株式会社槻木事業所
(葉坂字白坂)

■教育施設の整備充実に貢献

有限会社加藤土建
(船岡東1丁目)
佐藤総業株式会社
(船岡字清住町)

船岡小学校父母教師会

■町内の小中学校等に物品等を寄 附し、教育施設の整備充実に貢 献

槻木陸上スポーツ少年団
船岡中学校同窓会
駒板 啓子 (槻木新町1丁目)
柴田ライオンズクラブ
宗片 憲司 (西船迫1丁目)

■社会福祉資金として多額の金員 を寄附

関 正忠 (船岡字新生町)

加茂 将立 (槻木下町2丁目)
東北リョーシヨク会

(仙台市宮城野区)

三愛ロジスティクス株式会社
(中名生字神明堂)

株式会社メガネの相沢
(仙台市青葉区)

富樫 秀雄 (船岡中央2丁目)

■多年にわたり町医として保健衛 生の向上と健康保持増進に貢献

乾 秀 (槻木下町3丁目)
佐藤 俊夫 (仙台市青葉区)
川口 啓一 (西船迫4丁目)

■町内に防犯灯を設置し治安の維 持に貢献

北日本電線株式会社船岡事業所
(船岡字山田)

東北電力株式会社白石営業所
(白石市)

株式会社ユアテック白石営業所
(白石市)

■多年にわたり町統計調査員とし て調査、統計の向上に貢献

佐々木文代 (槻木新町1丁目)

■交通指導隊に隊旗を寄附

安藤ミツ子 (本船迫字上町)

人口と
世帯数



38,941 人
(前月比 68 人減)



19,468 人
(前月比 74 人減)



19,473 人
(前月比 6 人増)



14,438 世帯 (平成20年7月1日現在)
(前月比 53 世帯減)